

宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表(令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

< 改正後(令和元年10月) >

< 現行(平成30年10月) >

< 備考 >

宮城県農業土木工事施工管理基準

第1項 ~ 第3項 [略]

第4項 品質管理

1 コンクリート関係 (1) 材料 セメントの物理試験 ~ 粗骨材のすりへり試験 [略]

工種	区分	試験(測定)項目	試験方法	試験(測定)基準	(参考)規格値	管理方式	処置	
コンクリート	(1) 材料	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103		細骨材 海砂9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) 砕砂及びスラグ細骨材(粘土、シルト等を含まない場合)7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下)  粗骨材 砕石3.0%以下(ただし、粒径判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材5.0%以下(砂利等)1.0%以下			
		粗骨材中の軟石量試験	JIS A 1126		舗装コンクリート 5%以下			
		骨材中の粘土塊量試験	JIS A 1137		細骨材 1.0%以下 粗骨材 0.25%以下			
		細骨材の塩化物イオン含有量試験(細骨材に海砂を使用する場合)	JSCE-C502 または JSCE-C503		0.04%以下			
		砂の有機不純物量	JIS A 1105		標準色より薄いこと		(3) 安全と認められる骨材の使用請負者の立会いのもと骨材を採取し、骨材のアルカリシリカ反応性試験(化学法又はモルタルバー法)を行い、その結果が無害と確認された骨材を使用する。	
	(2) 施工	骨材の安定性試験	JIS A 1122		細骨材 10%以下 粗骨材 12%以下		工事開始前 工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合	なお、化学法については工事開始前、工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で試験を行うものとし、またモルタルバー法は試験成績書により確認するとともに、JIS A 1804コンクリート生産工程管理用試験法により骨材が無害であることを確認する。ただし、次の場合はこの限りではない。 1) 工事開始前 コンクリート打設開始日の1ヶ月以内に、国営農業農村整備事業等で発注した他工事の請負者の立会いによる試験結果がある場合は、その試験結果を使用できる。
		骨材のアルカリシリカ反応性試験	JIS A 1145又は1146					
		配合試験		生コンの場合は、工場の配合報告書による。				
		塩化物イオン量	JIS A 1144 もしくは信頼できる機関で評価を受けた試験方法	海砂を使用する場合2回/日、その他の場合1回/週	0.3kg/m <sup>3</sup> 以下			
		単位水量測定	1. 水中コンクリート、転圧コンクリート等の特殊なコンクリートを除き、1日当たりコンクリート種別毎の使用量が100m <sup>3</sup> 以上施工するコンクリート工を対象とする。	100m <sup>3</sup> 以上の場合:2回/日(午前1回、午後1回)、重要なコンクリート構造物の場合は重要度に応じて100~150m <sup>3</sup> 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	1. 測定した単位水量が配合設計±15kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2. 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> を超え±20kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後配合設計			

宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表 (令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

＜ 改正後 (令和元年 10月) ＞					＜ 現行 (平成 30年 10月) ＞		＜ 備考 ＞	
工種	区分	試験(測定)項目	試験方法	試験(測定)基準	(参考)規格値	管理方式	処置	
コンクリート	(2) 施工		2. エアメーター法又はこれと同程度、若しくは、それ以上の精度を有する測定機器を使用するものとし、施工計画書に記載するとともに、事前に機器諸元表、単位水量算定方法を監督職員に提出するものとする。また、使用する機器はキャリブレーションされた機器を使用するものとする。	※対象(重要なコンクリート構造物)は、高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁(プレキャスト製品は除く。)、内空断面が25㎡以上の鉄筋コンクリートカールト類、橋梁上・下部工(PCは除く。)、トンネル及び高さが3m以上の堰・水門・樋門とするが、当該事業において重要なコンクリート構造物と位置付けられる場合は、対象とするものとする。	±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。なお、「15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで」とは、2回連続して15kg/m <sup>3</sup> 以内の値を観測することをいう。		2) 工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合 JISに基づき6ヶ月ごとに行う試験を化学法で行う場合は、試験に用いる骨材の採取に骨材生産者、生コンクリート生産者及び請負者が立ち会えば、JISに基づく試験結果が使用できる。 なお、この試験結果は1ヶ月以内であれば他工事で使用できるが、この場合、請負者は同一の骨材生産場所から納入されていることを確認するものとする。	
		スランプ試験	JIS A 1101	圧縮強度試験用供試体採取時及び荷卸し時に品質変化が認められたとき	2.5cm …………… ± 1.0 (cm) 5cm及び6.5cm …… ± 1.5 8cm以上18cm以下 … ± 2.5 21cm …………… ± 1.5			
		空気量試験	JIS A 1128他	圧縮強度試験用供試体採取時及び荷卸し時に品質変化が認められたとき	指定値 ± 1.5%			
		圧縮強度試験	JIS A 1108	1 供試体の試料荷卸し場所にて採取する。 2 試験基準 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡毎に1回とする。  テストピースは1回につき6個(σ <sub>7</sub> …3個、σ <sub>28</sub> …3個)とする。  * 小規模工種、1規格当たりの総使用量が20㎡未満の場合には1回以上、またはレディーミストコンクリート工場(JIS表示認証工場)において作成された品質証明書の提出のみとすることができる。	現場縛りコンクリート 同時に作った3本の供試体の平均値は、基準強度の80%を1/20の確率で下回ってはならない。また、基準強度を1/4以上の確率で下回ってはならない。  レディーミストコンクリート 1回の試験結果は、呼び強度の85%以上でなければならない。 3回の試験結果の平均値は呼び強度以上でなければならない。 なお、1回の試験とは採取した試料で作った3個の供試体の平均値で表したものの。			
<p>曲げ強度試験 [略]</p> <p>2 土質関係 ～ 6 その他の二次製品 [略] [品質管理参考資料] [略]</p> <p>第5項 [略]</p>								

宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表 (令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

改正後(令和元年10月)	現行(平成30年10月)				備考			
宮城県農業土木工事施工管理基準								
第1項 ~ 第3項 [略]								
第4項 品質管理								
1 コンクリート関係 (1) 材料 セメントの物理試験 ~ 粗骨材のすりへり試験 [略]								
	コンクリート	(1) 材料	試験(測定)項目	試験方法	試験(測定)基準	(参考)規格値	管理方式	処置
		骨材の微粒分量試験	JIS A 1103		細骨材 海砂9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) 砕砂及びスラグ細骨材(粘土、シルト等を含まない場合)7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下)  粗骨材 砕石3.0%以下(ただし、粒径判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材5.0%以下(砂利等)1.0%以下			
粗骨材中の軟石量試験		JIS A 1126		舗装コンクリート	5%以下			
骨材中の粘土塊量試験		JIS A 1137		細骨材 粗骨材	1.0%以下 0.25%以下			
細骨材の塩化物イオン含有量試験(細骨材に海砂を使用する場合)		JSCE-C502 または JSCE-C503		0.04%以下				
砂の有機不純物量		JIS A 1105		標準色より薄いこと		(3) 安全と認められる骨材の使用請負者の立会いのもと骨材を採取し、骨材のアルカリシリカ反応性試験(化学法又はモルタルバー法)を行い、その結果が無害と確認された骨材を使用する。		
骨材の安定性試験		JIS A 1122		細骨材 粗骨材	10%以下 12%以下	なお、化学法については工事開始前、工事中1回/6ヶ月かつ産地がかわった場合に信頼できる試験機関で試験を行うものとし、またモルタルバー法は試験成績書により確認するとともに、JIS A 1804コンクリート生産工程管理用試験法により骨材が無害であることを確認する。		
骨材のアルカリシリカ反応性試験		JIS A 1145又は1146		生コンの場合、工場の変容報告書による。	工事開始前 工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合	ただし、次の場合はこの限りではない。 1) 工事開始前 コンクリート打設開始日の1ヶ月以内に、国営農業農村整備事業等で発注した他工事の請負者の立会いによる試験結果がある場合は、その試験結果を使用できる。		
配合試験								
(2) 施工		塩化物イオン量	JIS A 1144 もしくは信頼できる機関で評価を受けた試験方法	海砂を使用する場合2回/日、その他の場合1回/週	0.3kg/m <sup>3</sup> 以下			
	単位水量測定	1. 水中コンクリート、転圧コンクリート等の特殊なコンクリートを除き、1日当たりコンクリート種別毎の使用量が100m <sup>3</sup> 以上施工するコンクリート工を対象とする。	100m <sup>3</sup> 以上の場合:2回/日(午前1回、午後1回)、重要なコンクリート構造物の場合は重要度に応じて100~150m <sup>3</sup> 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数が多い方を採用する。	1. 測定した単位水量が配合設計±15kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2. 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> を超え±20kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後配合設計				

宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表(令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

＜ 改正後(令和元年10月) ＞		＜ 現行(平成30年10月) ＞					＜ 備考 ＞
工種 コンクリート	(2) 施工	試験(測定)項目	試験方法	試験(測定)基準	(参考)規格値	管理方式	処置
			2. エアメーター法又はこれと同程度、若しくはそれ以上の精度を有する測定機器を使用するものとし、施工計画書に記載するとともに、事前に機器諸元表、単位水量算定方法を監督職員に提出するものとする。また、使用する機器はキャリブレーションされた機器を使用するものとする。 また、使用する機器はキャリブレーションされた機器を使用するものとする。	※対象(重要なコンクリート構造物)は、高さが5m以上の鉄筋コンクリート構壁(プレキャスト製品は除く。)、内空断面が25㎡以上の鉄筋コンクリートカールト類、橋梁上・下部工(PCは除く。)、トンネル及び高さが3m以上の堰・水門・樋門とするが、当該事業において重要なコンクリート構造物と位置付けられる場合は、対象とするものとする。	±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3. 配合設計±20kg/m <sup>3</sup> の指示値を超える場合は、生コンを打ち込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。 <u>その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m<sup>3</sup>以内になることを確認する。更に、配合設計±15kg/m<sup>3</sup>以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量測定を行う。</u> なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。 ただし、示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m <sup>3</sup> 、40mmの場合は165kg/m <sup>3</sup> を基本とする。		2) 工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合 JISに基づき6ヶ月ごとに行う試験を化学法で行う場合は、試験に用いる骨材の採取に骨材生産者、生コンクリート生産者及び請負者が立ち会えば、JISに基づく試験結果が使用できる。 なお、この試験結果は1ヶ月以内であれば他工事も使用できるが、この場合、請負者は同一の骨材生産場所から納入されていることを確認するものとする。
		スランプ試験	JIS A 1101	圧縮強度試験用供試体採取時及び荷卸し時に品質変化が認められたとき	2.5cm …………… ± 1.0(cm) 5cm及び6.5cm …… ± 1.5 8cm以上18cm以下 … ± 2.5 21cm …………… ± 1.5		
		空気量試験	JIS A 1128他	圧縮強度試験用供試体採取時及び荷卸し時に品質変化が認められたとき	指定値± 1.5%		
		圧縮強度試験	JIS A 1108	1. 供試体の試料荷卸し場所にて採取する。 2. 試験基準 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150m <sup>3</sup> 毎に1回とする。  テストピースは1回につき6個(σ <sub>7</sub> …3個、σ <sub>28</sub> …3個)とする。  * 小規模工種、1規格当たりの総使用量が20m <sup>3</sup> 未満の場合には1回以上、またはレディーミクストコンクリート工場(JIS表示認証工場)において作成された品質証明書の提出のみとすることができる。	現場練りコンクリート 同時に作った3本の供試体の平均値は、基準強度の80%を1/20の確率で下回ってはならない。また、基準強度を1/4以上の確率で下回ってはならない。  レディーミクストコンクリート 1回の試験結果は、呼び強度の85%以上でなければならない。 3回の試験結果の平均値は呼び強度以上でなければならない。 なお、1回の試験とは採取した試料で作った3個の供試体の平均値で表したものの。		
曲げ強度試験 [略]  2 土質関係 ～ 6 その他の二次製品 [略] [品質管理参考資料] [略]  第5項 [略]							

宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表(令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

< 改正後 (令和元年 10 月) >			< 現行 (平成 30 年 10 月) >			< 備考 >
第6項 施工管理記録様式			第6項 施工管理記録様式			
目次			目次			
様式	名称	頁	様式	名称	頁	
[略]	(出来形管理関係) [略]	[略]	[略]	(出来形管理関係) [略]	[略]	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	5	<u>(コンクリート関係)</u> セメントの密度試験	<u>239</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	6-1	<u>セメントの粉末度試験 (比表面積試験)</u>	<u>240</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	6-2	<u>セメントの粉末度試験 (網ふるい試験)</u>	<u>241</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	7	<u>セメントの凝結試験</u>	<u>242</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	8	<u>セメントの安定性試験</u>	<u>243</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	9	<u>セメントの強さ試験</u>	<u>244</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	10	<u>細骨材の密度および吸水率試験</u>	<u>245</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	11	<u>粗骨材の密度および吸水率試験</u>	<u>246</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	12	<u>細骨材の表面水率試験</u>	<u>247</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	13-1	<u>骨材のふるい分け試験 (細骨材)</u>	<u>248</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	13-2	<u>骨材のふるい分け試験 (粗骨材)</u>	<u>249</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	14	<u>骨材試験成績一覧表</u>	<u>250</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	15	<u>コンクリートのスランブ試験およびフレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験 (空気室圧力方法)</u>	<u>251</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	16	<u>コンクリートの圧縮強度試験</u>	<u>252</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	17	<u>コンクリートの曲げ強度試験</u>	<u>253</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	18	<u>フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験</u>	<u>254</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	19	<u>骨材のアルカリシリカ反応性試験 (科学法)</u>	<u>255</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	20	<u>骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルーパー法)</u>	<u>256</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	21	<u>鉄筋の曲げ試験</u>	<u>257</u>	
<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	<del>[削除]</del>	22	<u>鉄筋の引張試験</u>	<u>258</u>	

宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表(令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

< 改正後 (令和元年 10 月) >			< 現行 (平成 30 年 10 月) >			< 備考 >
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>		<u>(土質関係)</u>		
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">2 3</a>	<a href="#">土の含水比試験</a>	<a href="#">259</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">24-1</a>	<a href="#">砂置換法による土の密度試験(校正)</a>	<a href="#">260</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">24-2</a>	<a href="#">砂置換法による土の密度試験(測定)</a>	<a href="#">261</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">2 5</a>	<a href="#">土の収縮定数試験</a>	<a href="#">262</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">26-1</a>	<a href="#">C B R 試験(初期状態、吸水膨張試験)</a>	<a href="#">263</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">26-2</a>	<a href="#">C B R 試験(貫入試験)</a>	<a href="#">264</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">26-3</a>	<a href="#">C B R 試験(室内試験結果)</a>	<a href="#">265</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">2 7</a>	<a href="#">修正 C B R 試験</a>	<a href="#">266</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">2 8</a>	<a href="#">現場 C B R 試験</a>	<a href="#">267</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">2 9</a>	<a href="#">道路の平板載荷試験</a>	<a href="#">268</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">3 0</a>	<a href="#">土の直接せん断試験</a>	<a href="#">269</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">3 1</a>	<a href="#">ポータブルコーン貫入試験</a>	<a href="#">270</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">3 2</a>	<a href="#">締固めた土のコーン指数試験</a>	<a href="#">271</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">33-1</a>	<a href="#">土の一軸圧縮試験(初期状態、軸圧縮過程)</a>	<a href="#">272</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">33-2</a>	<a href="#">土の一軸圧縮試験(強度・変形特性)</a>	<a href="#">273</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">34-1</a>	<a href="#">土の液性限界・塑性限界試験(測定)</a>	<a href="#">274</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">34-2</a>	<a href="#">土の液性限界・塑性限界試験(試験結果)</a>	<a href="#">275</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">3 5</a>	<a href="#">土粒子の密度試験(検定、測定)</a>	<a href="#">276</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">36-1</a>	<a href="#">土の粒度試験(ふるい分析)</a>	<a href="#">277</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">36-2</a>	<a href="#">土の粒度試験(2mmふるい通過分分析)</a>	<a href="#">278</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">36-3</a>	<a href="#">土の粒度試験(粒径加積曲線)</a>	<a href="#">279</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">37-1</a>	<a href="#">突固めによる土の締固め試験(測定)</a>	<a href="#">280</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">37-2</a>	<a href="#">突固めによる土の締固め試験(締固め特性)</a>	<a href="#">281</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>		<u>(アスファルト関係)</u>		
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">3 8</a>	<a href="#">アスファルト試験成績一覧表</a>	<a href="#">282</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">3 9</a>	<a href="#">アスファルトの粘度温度表</a>	<a href="#">283</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 0</a>	<a href="#">粗骨材試験成績一覧表(砕石)</a>	<a href="#">284</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 1</a>	<a href="#">粗骨材試験成績一覧表(砂)</a>	<a href="#">285</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 2</a>	<a href="#">石紛及びスクリーニングス試験成績一覧表</a>	<a href="#">286</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 3</a>	<a href="#">骨材粒度曲線表(アスファルト)</a>	<a href="#">287</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 4</a>	<a href="#">合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例</a>	<a href="#">288</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 5</a>	<a href="#">骨材の推定変動範囲(粗骨材及びスクリーニングス)</a>	<a href="#">289</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 6</a>	<a href="#">骨材配合率の密度補正</a>	<a href="#">290</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 7</a>	<a href="#">粗骨材配合率及び合成粒度(室内試験)</a>	<a href="#">291</a>	
<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">[削除]</a>	<a href="#">4 8</a>	<a href="#">合成粒度曲線(室内試験)</a>	<a href="#">292</a>	

宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表(令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

< 改正後 (令和元年 10 月) >			< 現行 (平成 30 年 10 月) >			< 備考 >
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>4.9</u>	<u>試験配合表 (アスファルト量別)</u>	<u>293</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>50-1</u>	<u>アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式・理論最大密度)</u>	<u>294</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>50-2</u>	<u>アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式)</u>	<u>295</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>5.1</u>	<u>試験結果図表</u>	<u>296</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>5.2</u>	<u>マーシャル試験による基準アスファルト量</u>	<u>297</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>5.3</u>	<u>フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験</u>	<u>298</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>5.4</u>	<u>粗骨材のすりへり試験</u>	<u>299</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>5.5</u>	<u>アスファルトの抽出試験</u>	<u>300</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>5.6</u>	<u>路面の平坦性試験表 (標準偏差)</u>	<u>301</u>	
<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>削除</u>	<u>5.7</u>	<u>ブローフローリング試験</u>	<u>302</u>	
[略]	(品質管理関係) [略]	[略]	[略]	(品質管理関係) [略]	[略]	

宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表(令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

< 改正後(令和元年10月) >

< 現行(平成30年10月) >

< 備考 >

(出来形管理関係)

(出来形管理関係)

様式 1 [略]

様式 1 [略]

様式 2-1

様式 2-1

出来形管理図表

出来形管理図表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

管理基準値 A	規格値 B	測定 単位
+	+	-

管理基準値 A	規格値 B	測定 単位
+	+	-

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	設計値との差
							測定箇所図

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	設計値との差
							測定箇所図

記入事項

記入事項

1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、横台工(中心線のズレ(e))等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. 設計値との差の単位を定め、目盛りで数値を記入する。
5. Fを算出する|A|値は、E>0の場合は十側の値を、E≤0の場合は一側の値を用いる。また、|A|値が十側か一側の片方、若しくは両方がない場合は、その符号側はF=「  」とする。

1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、横台工(中心線のズレ(e))等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. 設計値との差の単位を定め、目盛りで数値を記入する。
5. Fを算出する|A|値は、E>0の場合は十側の値を、E≤0の場合は一側の値を用いる。また、|A|値が十側か一側の片方、若しくは両方がない場合は、その符号側はF=「  」とする。



宮城県農業土木工事施工管理基準 新旧対照表 (令和元年10月)

(下線の部分は改正部分)

< 改正後 (令和元年 10 月) >	< 現行 (平成 30 年 10 月) >	< 備 考 >																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">様式 2-2 [略]</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">様式 3-1</div> <p style="text-align: center;"><u>測定結果一覧表</u></p> <p>工事名 _____ 受注会社名 _____            工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 5px;"> <tr> <th colspan="2">管理基準値</th> <th colspan="2">規格値</th> <th colspan="2">測定単位</th> <th colspan="2">管理基準値</th> <th colspan="2">規格値</th> <th colspan="2">測定単位</th> </tr> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>A</th><th>B</th><th></th><th></th><th>A</th><th>B</th><th></th><th></th><th></th><th></th> </tr> <tr> <td>+</td><td>-</td><td>+</td><td>-</td><td></td><td></td><td>+</td><td>-</td><td>+</td><td>-</td><td></td><td></td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">番号</th> <th rowspan="2">月日</th> <th rowspan="2">測点</th> <th rowspan="2">設計値 C</th> <th rowspan="2">実測値 D</th> <th rowspan="2">設計値 との差 E=D-C</th> <th rowspan="2">管理基準 値との差 F= A - E </th> <th rowspan="2">番号</th> <th rowspan="2">月日</th> <th rowspan="2">測点</th> <th rowspan="2">設計値 C</th> <th rowspan="2">実測値 D</th> <th rowspan="2">設計値 との差 E=D-C</th> <th rowspan="2">管理基準 値との差 F= A - E </th> </tr> <tr> <th></th><th></th><th></th><th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">記入事項            1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。            2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。            3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。            4. Fを算出する A 値は、E&gt;0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、 A 値が+側か-側の片方、若しくは両方にならない場合は、その符号側はF= <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;"> </span> とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">様式 3-2 ~ 様式 4 [略]</div>	管理基準値		規格値		測定単位		管理基準値		規格値		測定単位		A	B	A	B			A	B					+	-	+	-			+	-	+	-			番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E																																																																																																																																																																																																																							<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">様式 2-2 [略]</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">様式 3-1</div> <p style="text-align: center;"><u>測定結果一覧表</u></p> <p>工事名 _____ 受注会社名 _____            工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 5px;"> <tr> <th colspan="2">管理基準値</th> <th colspan="2">規格値</th> <th colspan="2">測定単位</th> <th colspan="2">管理基準値</th> <th colspan="2">規格値</th> <th colspan="2">測定単位</th> </tr> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>A</th><th>B</th><th></th><th></th><th>A</th><th>B</th><th></th><th></th><th></th><th></th> </tr> <tr> <td>+</td><td>-</td><td>+</td><td>-</td><td></td><td></td><td>+</td><td>-</td><td>+</td><td>-</td><td></td><td></td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">番号</th> <th rowspan="2">月日</th> <th rowspan="2">測点</th> <th rowspan="2">設計値 C</th> <th rowspan="2">実測値 D</th> <th rowspan="2">設計値 との差 E=D-C</th> <th rowspan="2">管理基準 値との差 F= A - E </th> <th rowspan="2">番号</th> <th rowspan="2">月日</th> <th rowspan="2">測点</th> <th rowspan="2">設計値 C</th> <th rowspan="2">実測値 D</th> <th rowspan="2">設計値 との差 E=D-C</th> <th rowspan="2">管理基準 値との差 F= A - E </th> </tr> <tr> <th></th><th></th><th></th><th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">記入事項            1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。            2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。            3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。            4. Fを算出する A 値は、E&gt;0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、 A 値が+側か-側の片方、若しくは両方にならない場合は、その符号側はF= <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;"> </span> とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">様式 3-2 ~ 様式 4 [略]</div>	管理基準値		規格値		測定単位		管理基準値		規格値		測定単位		A	B	A	B			A	B					+	-	+	-			+	-	+	-			番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E																																																																																																																																																																																																																																																																	
管理基準値		規格値		測定単位		管理基準値		規格値		測定単位																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
A	B	A	B			A	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
+	-	+	-			+	-	+	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
管理基準値		規格値		測定単位		管理基準値		規格値		測定単位																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
A	B	A	B			A	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
+	-	+	-			+	-	+	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															